

矢巾町定例記者会見

日 時：令和6年1月9日（火）
午前9時30分～午前10時
場 所：役場2階2-2会議室

【内容】

- 1 令和5年度第3弾地元学び塾～味噌づくり編～の開催について
(産業観光課)
- 2 奇祭スミつけ祭りについて (産業観光課)
- 3 第46回矢巾町郷土芸能大会について (文化スポーツ課)

案 件 名 令和5年度第3弾地元学び塾～味噌づくり編～の開催について**所管部署** 産業観光課 農林振興係 担当者 尾久一太 (内線 2616)

生産者自らが講師となり、生産者だからこそ知り得る知恵や食文化について、農業や地域に興味がある人へ向けて発信することで、矢巾町の農作物ファンを増やし、地産地消を促し、矢巾町の新たな魅力の発見を目的とした令和5年度地元学び塾第3弾を開催します。

◆日 時 令和6年1月20日(土) 午前10時から正午まで

◆場 所 矢巾町公民館3階大研修室

◆内 容 ①3ちゃん矢次工房のメンバーを講師に、味噌づくりについて講義
②味噌づくり体験

◆参加費 1,300円(味噌づくり体験材料代として)

◆定 員 30名(未就学児は保護者同伴)

令和5年度 第3弾 地元学び塾

～味噌づくり編～

昔ながらの農家さんの知恵「味噌づくり」。たくさん愛情を込めた味噌づくりを通して、農家さんの想いや知恵を学んでみませんか。



※写真はイメージです

日時：令和6年1月20日(土) 10:00～12:00
(受付開始 9:30)

場所：矢巾町公民館 3階 大研修室

参加費：1,300円 ※未就学児は大人の方とご参加をお願いします
1人あたり2キロ相当の味噌をつくります。作った味噌は各自持ち帰りいただき、約1年後に食べごろになります。

定員：30名

受付開始日 令和5年12月25日(月) 9:30～
申し込み方法は裏面をご覧ください。
※申込多数の場合は抽選となります。

持ち物：エプロン・三角巾、飲み物、筆記用具

※味噌作りの作業の中で、靴下着用が必要となるため、靴下を履いてご参加ください。

講師紹介



3ちゃん矢次工房 の皆さん

農家のお母さんたちが、家庭でも安心なお味噌を食べさせたいという思いで工房を立ち上げ、販売を始めました。「ばあちゃん
の知恵」「とうちゃんの誇り」「かあちゃん
の愛情」が3ちゃんの名前の由来です。



タイムスケジュール

- 9:30 受付開始
(矢巾町公民館 3階 大研修室)
- 10:00 オリエンテーション
・3ちゃん矢次工房の皆さんの紹介
- 10:20 味噌づくリストート
・1人おおよそ2キロの味噌をつくります
・作った味噌はそれぞれ持ち帰ります
- 11:30 振り返り・感想共有
※当日は3ちゃん矢次工房さんの
商品(味噌、みそがんづきなど)の
販売会もいたします。
- 11:45 アンケート記入、解散
ぜひご利用ください

申し込み期間 令和5年 12/25(月) ~ 令和6年 1/10(水)

※申込多数の場合は抽選とさせていただきます。

お申し込み方法 QRコードからお申し込みの方は
こちらから

お申し込み



ご参加希望の方は、下記必要事項を確認し、電話またはFAX、または上記QRコードから申し込みください。

参加者氏名

※複数人でお申し込みの場合は
全ての方のお名前をご記入ください

年齢

※お子様の場合のみ必須

電話番号

FAX

住所

申込・問合わせ

9時～17時

一般社団法人カダル

※地元学び塾の企画運営を矢巾町から
受託しています。



019-601-2871



019-601-2872

案件名 奇祭スミつけ祭りについて (1/3)**所管部署** 産業観光課 観光振興係 担当者 田島 巧 (内線2606)

冬の風物詩として地域をはじめ町内の方々に親しまれている「奇祭スミつけ祭り」を4年ぶりに開催します。

このお祭りは「焼観音お年越行事」として約四百数十年前から城内地区に伝えられており、厄除けや無病息災、五穀豊穡を祈りお互いの顔にスミ（消し炭）をつけ合う「奇祭」といわれ、コロナ禍前までは毎年約500人来場され、大変賑わうお祭りです。

当日は、餅まきやスミつけコンテストもあります。ご家族や友人などお誘い合わせのうえご参加ください。

◆日時：令和6年2月3日（土）午後6時～午後8時頃

◆場所：実相寺西側観音堂 矢巾町大字煙山第7地割23番地（実相寺住所）

◆料金：無料

◆実施主体：スミつけ祭り実行委員会事務局（実相寺内）
電話697-5631

案件名 奇祭スミつけ祭りについて (2/3)

所管部署 産業観光課 観光振興係 **担当者** 田島 巧 (内線2606)

また、矢巾町観光協会では、スミつけ祭り写真コンクールを行います。

“スミつけ祭り”を、地域の伝統文化として後世に伝えるとともに、より多くの方がスミつけ祭りに参加し楽しんでいただくことを目的として開催します。

【応募方法について】

- ・応募点数は1人2点までとします。
- ・応募用紙に必要事項を記入し、写真裏面に貼付の上、応募先まで郵送又は直接お届けください。

【応募期間】

- ・令和6年2月5日(月)から2月14日(水)まで ※当日消印有効

【応募規格】

- ・203ミリ×254ミリ（六つ切版）より大きいサイズで、カラー写真とします。
- ・組写真不可、デジタルカメラの場合は未修正のもの。

【注意事項について】

- ・応募作品は本年度開催する「スミつけ祭り」の写真で、未発表のものに限ります。

案件名 奇祭スミつけ祭りについて (3/3)**所管部署 産業観光課 観光振興係 担当者 田島 巧 (内線2606)**

- ・写真の撮影、公表に伴う肖像権等のトラブルが発生した場合は、応募者の責任において解決してください。
- ・被写体が人物の場合、応募にあたっては必ず被写体本人の承諾を得てください。
- ・応募作品は原則として返却しません。ただし、入賞作品以外は希望により返却いたしますが、直接受け取りに来ていただくか、郵送の場合は送料をご負担いただきます。
- ・応募用紙に記載いただいた個人情報は、入賞通知や作品返却及び作品展示以外、使用いたしません。
- ・応募作品の著作権は、矢巾町観光協会に帰属するものとし、町広報紙や情報誌、観光PR等で使用させていただく場合があります。
- ・応募の写真は役場1階ホール、やはぱーくにおいて展示いたします。

【応募先・お問い合わせ】

矢巾町観光協会事務局

〒028-3692 岩手県紫波郡矢巾町大字南矢幅13-123

矢巾町産業観光課観光振興係 ☎019(611)2605

令和6年2月3日(土)午後6時開催!

祭り

スミつけ

奇祭



開催場所：實相寺西側・観音堂

問合せ先：スミつけ祭り実行委員会事務局

☎：019-697-5631（實相寺）

案件名 第46回矢巾町郷土芸能大会について

所管部署 文化スポーツ課 文化財係 担当者 煙山裕 (内線 2860)

矢巾町に古くから伝わる郷土芸能を公開し、広く鑑賞する機会を提供するとともに、郷土芸能の伝承保存に努めている団体の活性化を図るために、矢巾町郷土芸能大会を開催します。

- ◆ 日時 令和6年1月21日(日) 午前10時から(開場9時30分)
- ◆ 場所 矢巾町文化会館(田園ホール)
- ◆ 主催 矢巾町郷土芸能保存会、矢巾町
- ◆ 出演団体 徳丹獅子舞、白沢神楽、下赤林さんさ踊、西徳田伝承さんさ踊り、矢巾町民謡保存会、白沢さんさ踊、室岡獅子踊の町内7団体。特別出演として紫波町から赤沢神楽保存会
- ◆ その他 入場料無料
一日日程となることから3ちゃん矢次工房と矢巾観光開発による昼食の販売もごさいます。

第46回

矢巾町郷土芸能大会



徳丹獅子踊



白沢神楽



下赤林さんさ踊



赤沢神楽(紫波町)



矢巾町民謡保存会



西徳田伝承さんさ踊



白沢さんさ踊



室岡獅子踊

令和6年1月21日(日)
田園ホール(矢巾町文化会館)

開演10時(開場9時30分) 入場無料 全席自由

【主催】 矢巾町郷土芸能保存会、矢巾町
【後援】 (一社)岩手県文化財愛護協会、矢巾町観光協会、矢巾町芸術文化協会

【お問い合わせ先】

矢巾町郷土芸能保存会事務局(矢巾町文化スポーツ課 019-611-2860)

矢巾町の民俗芸能

矢巾町は紫波郡内であるために旧郡南村や紫波町の民俗芸能と深いつながりがあります。紫波郡は、平安時代から平泉藤原一族の樋爪氏が支配し、鎌倉時代から室町時代は斯波氏が北に支配を広げましたが、戦国時代になり南部氏に屈して軍門に下り、江戸時代には、盛岡藩に組み込まれました。戦国の世で農民など庶民が安寧を求めて芸能を行うようになり、特に浄土信仰による念仏踊りや死者供養を行うようになりました。庶民の暮らしに深く浸透した里修験は、村毎に寺社を設け、権現祈禱や神楽で神仏の加護を施し、芸能にも関与してきました。

矢巾町には、神楽・大神楽・田植踊・念仏剣舞・鹿踊・さんさ踊などの民俗芸能があります。それらは江戸時代の村単位で伝承されてきました。それが現在の団体名になっています。神楽は、祭りに深く関わる修験や社家の職分が一般の人体行えませんでした。大神楽も七軒丁という藩お抱え芸能集団の采配を受けていました。田植踊は集落の契約講などが采配をふるって小正月に豊作を祈願して行いました。念仏剣舞は庭元を中心に組織され盆供養に集落を巡りました。獅子踊は庭元を中心に組織され祭礼奉納や盆供養の門付けを行います。さんさ踊は基本的に盆踊ですが、鎮守の宮宮で集落ごとで楽しむ踊りとして行われています。

【出演団体の紹介】

客演団体 赤沢神楽(紫波町)

口伝によれば、赤沢神楽は早地峰岳神楽の系統に属する舞組で、天明年間(1781～1789)に、赤沢部落の嘉右エ門という肝入役があり、当時続いた飢饉によって、人心が乱れ世情衰えるという緊迫した様子を憂い、庶民の思想善導を願って民間娯楽を思い立ち、当時有名であった岳神楽から師匠を招いて、地域の若者に説いて神楽の伝承を受けたのが始まりと言われています。

当時近郷には神楽の舞組がなく、珍しさもあり一時は相当に盛んですが、その後七十余年を経た安政頃から衰微の途をたどりはじめました。その頃、天田の茂平という人が、その復興を志して、修業に励みましたが、なかなか容易でなく苦勞していました。舟窪(現船久保)の富豪十分一(屋号)の徳助がこの様子を知り、私財を投じて岳から師匠を招き、茂平達若者に修行させ、復活することができたと言われています。その後も幾多の変遷がありましたが、明治初年の神仏分離以後は、神事に欠かせない舞楽としてその地位を固め、折にふれては岳に行ったり招いたり練習に励み、誤りを正すなど精進を重ね、若者たちも参加するようになって町内でも神楽の老舗としての地位を確保しています。

徳丹獅子踊

獅子踊は、先祖供養や新盆供養の為に踊ります。由来や伝承では江戸中期に踊られ始め、盛岡市や紫波町内には徳丹獅子踊から伝承されたという同系統の踊りもあり、龍頭型の幕踊りで獅子と唐団扇、一八が踊り、太鼓と笛で囃します。現在は、徳田保育園園児や教職員が協力して踊られています。

白沢神楽

大正9年に白沢地区にあった系統の違う二つの神楽が合併して出来た神楽です。獅子舞も岳系の儀礼を残しながらも県北系の儀礼もあります。演目は基本的に岳系ですが、地域性を色濃く残した舞になっています。

下赤林さんさ踊

さんさ踊りは、盆踊りの一種ですが、特徴として門掛けを行う事で神楽や剣舞・鹿踊等の所作を取り入れて演目化していることです。

下赤林さんさ踊は、嘉永年間縁故があった三本柳さんさ踊りから伝承されており、昭和初期までは門掛けも行っていました。地元白山神社宮宮に奉納します。

西徳田伝承さんさ踊

西徳田組は、現紫波町柄内の流を汲む踊り組です。さんさ踊りの広がりを見ると旧紫波郡内には圧倒的にさんさ踊りが存在します。さんさ踊りの発祥は定かではありませんが、江戸時代に藩主の意向もあって広く普及したと言われ、一方仙台藩は盆踊りを禁止しました。盆のさんさ踊りは、庶民の大きな楽しみであったために大きな広がりを見せたのでしょう。

矢巾町民謡保存会

日本民族の大切な文化遺産として民謡を継承してきた矢巾町民謡保存会は今年度、結成70周年となりました。町内に住む民謡歌手漆原栄美子師の元、幼児から86歳まで30人、世代間交流をしながら民謡の唄、踊り、三味線など伝承活動をしています。その結果全国大会、各種大会で年々、優勝、入賞を頂いています。

白沢さんさ踊

黒川参差踊の流を汲み、大正時代に発足しています。動作が激しく躍動・勇壮を特徴に踊ります。地元神社の祭りに奉納し、盛岡さんの伝統部門に例年参加しています。

室岡獅子踊

カンナガラ幕踊系の獅子踊で徳丹獅子踊の流を汲みます。明治初期に桜屋経由で発足し、連綿と引き継がれています。踊りの先導役一八が獅子をけしかけ躍動的に踊ります。8月の木宮神社祭りに奉納します。

	出演団体	演舞時間
1	徳丹獅子舞保存会	10:20～10:30
2	白沢神楽保存会	10:35～10:50
3	下赤林芸能保存会	10:55～11:20
4	西徳田伝承さんさ踊保存会	11:25～11:45
5	矢巾町民謡保存会	11:50～12:10
6	白沢さんさ踊保存会	13:00～13:20
7	室岡獅子踊保存会	13:25～13:45
8	赤沢神楽保存会（紫波町）	13:50～14:20

主イベント【お知らせ】 1 2 月中旬から 1 月中旬までの主なスケジュール



※下記スケジュールについては現時点のものであり、特に屋外でのイベントについては天候等の状況によって中止あるいは延期する場合があります。

日 付	内 容
令和 6 年 1 月 2 0 日 (土)	令和 5 年度 第 3 弾 地元学び塾～味噌づくり編～ (午前 1 0 時～ 矢巾町公民館 3 階大研修室)
1 月 2 1 日 (日)	第 4 6 回矢巾町郷土芸能大会について (午前 1 0 時～ 矢巾町文化会館 (田園ホール))
2 月 3 日 (木)	奇祭スミつけ祭り (午後 6 時～ 実相寺西側観音堂)
2 月 1 3 日 (火)	2 月定例記者会見 (午前 9 時 3 0 分～ 役場 2 - 2 会議室)
月 日 ()	
月 日 ()	